

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【緑区】

〈開催概要〉

日 時：令和5年9月2日（土） 14:00～15:30

会 場：緑区役所 3階 大会議室 A・B・C

参 加 者：17名（傍聴者0名）

市出席者：市長、脱炭素社会推進課

事 務 局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：地球温暖化対策について考えよう ～みんなでアクション とともに未来へ～

参加者との意見交換

●参加者

<発言1>

地球温暖化について意見を述べたいと思います。

この夏は、耐え忍ぶ暑さが続いています。暑さや二酸化炭素の排出量を減らすために、エネルギーの有効活用施設をきちんと運営されるとよいかと思います。よい環境をつくるために、テーマパークをきれいにしていくとよいと思います。ちょうどよい環境を常に話し合っつくり、よりよい環境になるように会場をつくり上げていくとよいと思います。比較的過ごしやすい空調にし、涼しい夏を目指すと思います。

ゲリラ豪雨ではなくて普通の雨で涼しい夕方を生むには、エネルギーコントロールが大切ですので、環境調整を実現するテーマパークづくり、まちづくりを整備するとよいと思いました。

あと、車などの排気ガスを調整し、ごみ焼却施設を有効活用して、クリーンな空気づくりをしましょう。あと、リサイクル施設の有効運営をしてみましょう。

あと、個人的には紫外線UVケア、あとはたれ付き帽子をかぶり、涼しい風がくる扇風機をつけてシャワーなどで身を清潔にして、ヘルシーランドなどでリフレッシュしたいと思いました。

冷房を有効活用し、甘い物を摂って規則正しい生活をし、公的施設の運営を施設の方々とともにしていくとよいでしょうね。

あと、天然資源を有効活用したらよいと思いました。

<発言2>

昨年のタウンミーティングで、市内のデジタル化促進に関連して、高齢者向けのスマホ教室の開設をお願いしました。私の地区の尾間木公民館でも始まりまして、参加募集ポスターにはなんと、満員御礼のシールが貼られるほど盛況です。すぐに手配をしてくださってありがとうございました。

また、市役所移転と新しいまちづくりがテーマのときには、市内の小・中・高・大学生の勉強のために、公共施設を更に利用したい、しやすい環境になるようお願いしました。プラザイースト内にある図書館ではテスト期間中はもとより、休暇中でも開館時刻前から生徒、学生が列をつくります。警備員の方が、この子たちは机上の消しゴムかすまできれいに拭き取って帰っていくのだと、自慢げに話していました。これは、図書館のスタッフ

が環境づくりをしてくれたからであり、そのように導いていただき、ありがとうございます。

さて、図書館の子どもたちは今日のテーマにつながります。図書館で勉強する間は、自宅のクーラーやストーブを使いません。スーパーやドラッグストアの駐車場でエンジンをかけたまま、買物が終わるのを待つ人を散見いたします。そこで、次のような掲示板を市で御用意いただき、お店に支給していただけないかという提案です。

どの様な掲示板かという、「当店はストップ地球温暖化協力店です。外でお買物が終わるのをお待ちの方は、是非涼しい店内でお待ちください。」というものです。

お店にとってはイメージアップと、来店者数アップになります。一般市民の目にも、ストップ温暖化への喚起、啓蒙になると思います。

なお、本件には第二案がありまして、全国初かもしれませんが、さいたま市アイドリング禁止厳罰化まで踏み込んでいただければと思います。

< 発言 3 >

毎日毎日猛暑日が続いていますが、私は群馬県の西の外れのまちで育ち、この夏も実家に帰省したのですが、朝の涼しさが、とてもさいたま市内では感じられない涼しさでした。何で違うのかというと、草木の多さが全然違うためだと自分の肌で感じました。

また、令和2年ぐらいのさいたま市の資料で見たのですが、生産緑地も含めて、年々緑地が減少している事実があると思います。冒頭の市長のお話にもあったように、さいたま市は非常に人気があるので、移り住んでくる方が多く、緑地の住宅地化がどんどん進んでいるのではないかと思います。それに伴って、かなり緑が減っているのだと思います。緑の減少を食い止め、逆に増やせるような施策を考えていただけるとよいかと思います。

< 発言 4 >

早速ですが、地球温暖化について家庭で取り組んでいることを発表します。

我が家では、よくキャンプに行きます。そこで使っているポータブル電源とソーラーパネルを7月から日常的に自宅で使用しています。普通の賃貸マンションなのですが、昨年と比較して今年の方がエアコンの使用量は増えていますが、8月の電気代は昨年より減らすことができました。これを、是非さいたま市約63万8,000世帯で取り組むとよいと思います。

そこで、さいたま市に取り組んでほしいことが、まず戸建ての住宅と同様に集合住宅に対しても太陽光発電設備の補助金を支給してほしいです。ただ、費用対効果が少なく、単に電気代節約のために太陽光発電設備を購入する人は少ないと思われます。そこで、キャンプに行くことを推奨し、スタンプラリーなどでポイントを付与する仕組みをつくってほしいです。

これらの取組は、防災面でも大きなメリットがあります。県内でも、秩父や飯能など魅力的なところがたくさんあるにもかかわらず、行ったことがない人が多いのが現状です。

ただ、個人の取組には限界があります。そこで、さいたま市ほどの規模になると、大型の商業施設や公共施設などの取組が重要になります。

そこで、家族で考えたのが、さいたま市役所を含む10区役所対抗省エネチャレンジ大会を開催して、さいたまは、「翔んで埼玉」にもあるように、区同士の仲が悪いことを逆手に取って、競いながら区役所の省エネに取り組むような大会を開催してほしいと思いました。

< 発言 5 >

地球温暖化対策ということで、さいたま市のごみの処理方法について申し上げます。

私は、八王子市の出身で実家に帰ることがあるのですが、八王子市は実は50万人以上の都市で、ごみの一人当たりの排出量が少ない都市1位なのです。それと比べると、さいた

ま市は本当に一人ひとりの出すごみの量が多いなと思います。八王子市は個別回収なので、皆家の前に出していくのですが、出し方もきれいだし、さいたま市と比べると格段に一人当たりの量が少ないです。ごみ袋も有料です。

そのため、ごみの量を減らすことを考えると、思い切ってごみ袋を有料化することも今後必要になってくると思いますし、収集効率は下がりますし、コストの問題もあるのはわかるのですが、さいたま市も今後、個別回収を導入するとよいと思います。排出責任が明確になりますし、高齢者の人等にもメリットもありますので、個別回収を今後考えていくべきだと思います。桜環境センターでは、ごみの混入で火事もありましたが、個別回収にすることで、そういうこともなくなると思います。

あと、環境問題に関連して申し上げます。

さいたま市の下水道の普及率ですが、政令指定市の大きい都市の中では低いです。もちろん、岡山市や浜松市に比べると高いのですが、さいたま市は今94%台です。札幌市99.8%、仙台市98.7%、横浜や大阪は100%、福岡99.7%、名古屋99.4%と、皆99%台の中で、さいたま市の下水道普及率は94%なのです。

つまり、6%はトイレ以外の水をそのまま排出しているということです、もちろん、合併浄化槽を使っている家庭でしたら処理して出していると思うのですが、そのまま流しているということです。古い家も多いですので、こういったことも進めていかないと、環境問題としてはよくないと思います。

< 発言 6 >

意見の1つ目は、「つくる責任 つかう責任」です。

地球温暖化対策として、太陽光パネル、蓄電設備の廃棄量、処理について心配しています。環境庁や国税庁の資料では、2030年当たりから廃棄する設備機器が急増し、永久的に使用できるものではないため、国のガイドラインに沿い廃棄処分、埋立てやリサイクル対策構築が必要であるとのこと。

また、太陽光パネルなど蓄電設備は、固定資産税対象の償却資産と聞きましたので、温暖化対策に係る設備機器の耐用年数、廃棄処分費用、税金などの費用負担は新庁舎移転整備事業と重なり、市民の税負担につながるのではないかと、大きく気にかけています。

2つ目は、「気候変動に具体的な対策を」です。

さいたま市緑区には、日本一の桜街道があります。しかし、桜の寿命は種類によって違い、できるだけ長い寿命の品種を植えたり、照葉樹を生かした人工の森をつくったりする工夫も必要です。

緑区には、緑をどこよりも多く活用した暮らしが望まれます。地球温暖化の未来をどう生きるか、地球温暖化への関心を持ち、開発だけではなく自然を大切に作る心で、100年先に命の循環を引き継ぐことを期待しています。

< 発言 7 >

1つお尋ねしたいのですが、緑区の大きな部分を占めている見沼田んぼには、少し勉強をした中では遊水地の機能があると、ある資料に書いてありました。昭和30年代に大きな台風のときにそこを利用して、水を回避させた事実もあると、図書館の資料に記載がありました。

近年、先日は北京の郊外で、日本では今年は秋田県や山形県で大量の雨が降っています。

さいたま市には、大きな荒川を抱えていますので、私たちのまちをその水害から守ると同時に、川下である東京などの人口過密地帯を守る義務も我々にはあると思っています。

そのため、見沼田んぼが本当に遊水機能として働くことを前提に行政が進んでいるのかをお聞きしたいです。どういうときに遊水機能を発動し、発動した後にそこで生活している方の補償をどうするのかについて、私は全然知らないのですが、よい機会だから教えていただけたらありがたいと思っています。

積極的な提案ではないのですが、災害、地球温暖化に伴う災害の回避という意味では一つのテーマになるかなと思って発言させていただきました。

< 発言 8 >

提案したいのは、埼玉県飯能市にある高校で、御家庭から集めた使用済みの天ぷら油を回収して発電し、バイオディーゼル燃料に変えているのですが、そのバイオディーゼル燃料が、トラックなどの軽油代わりになるのです。

デメリットも多いのですが、メリットとしては軽油としての使用もできて、植物性の油を使っているので廃棄物のリサイクルにもつながります。二酸化炭素の排出量も抑制できると思うので、それをさいたま市で行うのはどうでしょうか。

もう一つ提案したいのは、子どもたちにも地球温暖化について考えてもらいたいという考えもあり、コンポストを使って、御家庭や学校の調理実習で出た生ごみを回収して堆肥にして、教育の一環としてその堆肥を使った野菜を作るというのも、温暖化の対策の一つになるのではないのでしょうか。

< 発言 9 >

私も廃油のことを考えていました。廃油回収システムというか、例えば回収の曜日と回収場所を決めて、廃油の回収をしていただけたらもっと協力できると思います。

それと、ごみ発電も既に考えていて、いろいろな取組がされているのをタウンミーティングの資料で知りました。

ここへ来た人だけではなく、市民全員で考えて、取り組んでいかなければ、こんなに危機的になった気候変動には対応できないと思います。環境啓発施設などによって、これから一人ひとりがもっと危機意識を持てるようにしていかなければならないと思いました。

< 発言 10 >

意見が3つありまして、1つ目は学校の電力使用量を見直していただきたいなと思います。

具体的には、私は今、大学に通っていて、大学での教室の移動が多くて、冷房、冷暖房の無駄が多いなと感じています。また新型コロナウイルスの対策の一環として換気を行っていた名残がまだあって、先生によってはドアを開けっ放しにして授業を行うなど、無駄が多いと感じます。そのため、市で基準をつくっていただいて、学校にお願いという形で一度コミュニケーションを取っていただけるとよいなと思いました。

2つ目は、小中高の生徒の服装についてです。暑い日や寒い日が多い中で、帽子や日傘、冬であれば羽織るものや、タオルケットなどに柔軟に対応していただきたいと思っています。

3つ目は、さいたま市では、とても地球温暖化対策を前向きに捉えて、対策をしていると思うのですが、他の自治体と情報共有をして、もう少し大きな規模で対策を行っていただきたいと思います。もし行っているのであれば、もっと発信していただけると、住民も率先して前向きに捉えて行動できると思いました。

< 発言 11 >

家庭でできる温暖化対策について調べたのですが、家庭でできる対策といっても、やってみるまでに時間がかかり、どのような対策が具体的にあるのかわからない方もいると思うので、図書館や児童館や区役所など様々な施設で、どのようなことをすれば地球温暖化防止につながる活動ができるのかを知らせてほしいです。

例えば、家庭などですることとしては掃除などにおいて、掃除機の中をまず掃除することや、エアコンの設定温度を適切にしたり、フィルターを小まめに清掃したり、また掃除機などをたくさん使うのではなく、モップや雑巾を活用することで節電することなども、

地球温暖化対策につながると考えました。そういったものを具体的に写真や絵、図などを使って豆知識なども添えながら、子どもたちなどでもわかるように様々な施設で掲示することで、1回やってみようという気持ちになるのではないかと考えました。

<発言12>

私は、三室の北宿坂の近くに住んでいます。昭和54年頃現住所へ越してきました、その当時から毎年網戸洗いをしています。最初の頃は1回お湯をかけて洗剤をかけて洗うと黒い水が出てきました。二、三年前ですと、大分水の色が薄くなり、前の3分の1ぐらいの濃度になってきました。具体的な数値はわかりませんが、1つは北宿坂と市立病院の坂を通っている車の中で、特にディーゼル車やバスがかなり黒煙を出していて、それが流れてきて網戸につくわけですが、現在は3分の1ぐらいに薄くなってきました。

最近では少なくなってきましたが、どうしても坂があると運転手はアクセル踏みますので、黒煙が出ます。それが、地球温暖化に非常に影響しているのではないかと思います。

そんな現状から思うことが2つあります。1つは、現段階で市や県や国がいろいろ取り組んでいます、今まで光化学スモッグの数値を計測して注意報を出していましたが、可能であれば、空気の汚染度について発表し、国民の皆さんの身近な理解を得てはどうかということです。もう1つは、ディーゼル車等をもう少し低公害のエンジンに、研究して変えていくことによって、かなりの浄化が図られると思っています。

資料にあった家庭の取組も大事なことで、私も今後協力していく考えでいますので、よろしくお願いします。

<発言13>

私は見沼田んぼの保全活動を行っています。

見沼田んぼは、東京都心から20～30キロ以内に位置しています。全体は1,260ヘクタールという面積ですが、1970年代はほとんどが水田でしたが、現在は約6%しか水田が残っていません。1,260ヘクタールあったものが6%になっているということは、1万3,000枚田んぼがあったものが、僅か760枚になってしまっているというのが現状です。

埼玉大学で調べた見沼田んぼの東側の環境図では、ほとんどが畑になっています。水田は僅かで、加田屋と南部領地辻辺りです。

東京から20～30キロという近さにありながら、今でも田んぼや畑、斜面に代用水といった、江戸時代の見沼の原風景が実現されている場所が今も残っているのですが、それは斜面林と用水と水田の三位一体の風景なのです。これは、さいたま市として極めて誇るべき原風景だと考えています。

この斜面林なのですが、実は大幅に減っています。昭和50年代に大宮側の斜面林はほとんど公園に変わってしまっています。東側の僅かながらの加田屋から大崎にかけての斜面林だけが残っている状態です。

この樹木、草地の空間は、温暖化対策に極めて重要な役割を果たすと思いますので、是非単純斜面林の保護の必要性を理解し、保護していただきたいと思っています。

◆市長

>> 発言1

エネルギーのテーマパークのようなものを造ってはどうかということで、過ごしやすい空調であったり、環境全体を学ぶような場所をつくることで、多くの皆さんの具体的な活動につながっていくのではないかと御意見を頂戴しました。

非常に面白いアイデアだと思っています。私たちとしても、環境のことを理解していただくための取組はすごく重要で、楽しみながら、体験しながら学べるという空間も、これから私たちとしても考えていきたいと思っています。

>>発言2

いろいろ具体例を出して、参加していただいたこともお話をいただきありがとうございます。

その中で、いわゆるアイドリングストップのための取組を御提案いただきました。お店の方々も巻き込んで、単にアイドリングをやめようという表示だけではなく、お店の中に入っていただくことで、車をつける冷房や暖房をカバーしていくという御提案でした。

埼玉県としてアイドリングストップという取組をしていますから、アイドリングストップしましょうという表示は結構あると思うのですが、お店の中でお待ちくださいというのは新しい発想で、非常に面白く、有効だと感じました。

>>発言3

年々緑地が減っているということで、宅地化が進んでいる中で緑をもっと増やす取組をしてはどうかという御意見をいただきました。

先ほどもお話しましたゼロカーボンシティを実現していくためには、エネルギーの活用を抑制していくだけではなく、二酸化炭素そのものを吸収してくれる緑の活用や創造は、非常に需要だと思います。

エネルギーの有効活用だけでは、限界があると思っています。また、特に政令指定都市や都市部ですと、なかなかゼロカーボンシティの実現は非常に高いハードルです。その中で、緑は、脱炭素や防災の視点でも大変重要な役割を果たすだろうと考えています。私たちとしてもグリーンインフラをしっかりと整備し、エネルギーの消費を減らすとともに、二酸化炭素の吸収量を増やすという両面からしっかりとやっていかないと、実現するのは難しいと考えています。

環境や災害だけでなく、まちに住む人の心の安らぎという点でも、緑は大切だと思います。私たちが今、ウォークアブルなまちづくりを推進しています。緑を増やしながらか皆さんが安心して暮らせる、そんなまちづくりという視点からも、しっかりと取り組んでいきたいなと感じたところです。

>>発言4

キャンプでポータブル電源を使われて、結果的にエアコンの8月の電気代が下がったという具体的な取組のお話をいただきました。本当にいろいろな参考になるお話がたくさんあったと思います。

その中で、省エネのチャレンジポイントや各区役所対抗の取組、これは非常に面白いなと思いました。特に、ゲーム感覚であったり、取組の見える化をしたりなど、どういう成果につながったのかを、参加している方々が知る、理解することは、モチベーションを維持する上ですごく重要なことだと思います。

国の節電ポイントやエコ・アクション・ポイントなどの取組も含め、何かの手續が市民の皆さんのインセンティブになるような取組についても実施していきたいと思っています。

>>発言5

ごみの排出量を減らすことがすごく重要だという中で、八王子市の事例を出してお話をいただきましてありがとうございます。大変参考になりました。

八王子市ではごみの有料化と個別収集が行われて、ごみの量が大幅減っているというお話をいただきました。

さいたま市も、一人当たりの排出量については年々減っていますが、人口が増えていることもあって、総量については頭打ちのような状況です。

その中で、今、ごみの有料化という議論も、まだ実施の検討まではしていませんが、ごみの量をどうやって減らしていくのかは大きなテーマだと思っています。今回お話をいた

だきました八王子市の例なども参考にさせてもらいながら、私たちもごみの排出量をしっかりと抑制していきたいと思えます。

あと、下水道の普及率ですが、仰るとおり、さいたま市は94%ぐらいだと思います。

おそらく政令指定都市によって若干差があると思えますが、私たちとしては下水道普及率が上がってきたという認識を持っています。農地などでは下水道の整備ができていない現状があつて、そこで下水道という手法の他に、合併浄化槽や集落排水など違う手法もあるので、様々な手法で100%を目指していこうと考えています。下水道の場合、利益を得る方が費用を負担することになるので、土地をたくさん持っている、特に農家の方々の場合は負担が大きくなるので、下水道ということだけではなく、他の手法で水の浄化をすることも考えながら、全体として水の浄化が図れる仕組みをつくることを検討しています。

今のところは、目標値を毎年定めて順次下水道を広げています。浦和区や中央区などの都市部のところは100%に近い状況ですが、農地がある郊外型のところはまだ少し残っている状況です。

住宅には基本的には下水道を入れるという考え方ですが、農地などとは区別をしながら整備をしていきたいと思えます。下水道の普及率は引き続き上げていきますが、下水道を100%というよりは下水道プラス別のことも含めて100%という考え方もあるのかなと思っています。

これは、下水道を入れてくれた方々の負担が非常に大きくなるというデメリットもあるので、別の手法を活用しながら、結果としては水質の保持をしていきたいと思えます。

>> 発言 6

まず太陽光の設備の廃棄問題は、私たちも大変大きな課題だと思っています。企業の方々も廃棄や再利用のあり方について、技術開発をして、取り組もうとしている企業などもあります。今は太陽光発電設備を積極的に導入していますが、当然耐用年数があります。リサイクルの仕組みができれば一番よいのですが、ただ現実として使えない部分も当然出てきますので、これからの大きな課題として、企業とも連携をしながらしっかりこれは取り組まなければならないと認識しています。

それから、緑を活用した暮らしをできるのがさいたま市だと、緑区だというお話をいただきました。さいたま市は首都圏の中では緑を活用したくらしができる貴重な空間だと私たちも思っています。開発とのバランスを取りながら、開発の際にも緑や、脱炭素への取組をしっかり盛り込む発想がなくてはならないと考えています。ルール化をするなど、いろいろな取組をさせていただければと思えます。

>> 発言 7

見沼田んぼの遊水機能のお話が出ました。かつて荒川は、大変大きな台風による被害があり、特に下流域の川口や都心部にかなり大きな影響が出たことがありました。見沼田んぼには、土地利用の基準が策定されていて、開発の抑制が随分なされてきました。田んぼは遊水地として機能する一方で、だんだんお米を作るだけでは生活が成り立ちにくくなって、農地や緑地として一部残っている形になり、昔より遊水機能については少し弱まっているところもあるのではないかと思っています。

例えば先日あつた集中豪雨で、特に緑区でいいますと見沼の民家園の周辺が非常に水であふれるという状況がありました。見沼田んぼでそういった形で水を止めていただけるわけですが、一方でそこで農作物を作っている皆さんからすると、いろいろな被害を受けるという部分もあると認識をしています。

その中で、私たちとしてはこの1,260ヘクタールの見沼田んぼをいかに保全し活用して、そして地主の皆さんも含めてそれを維持活用できる、そういった仕組みをできる限りつくっていくことが望ましいと思っています。

市では、見沼田んぼの担当室を設けて、部局横断的な問題にも対応できるように進めて

いますが、農地はだんだん、この先耕作放棄地なども増えていたりして、いろいろな課題が発生する状況になっています。

引き続き、私たちとしてはこの1,260ヘクタールの巨大な、首都圏の中で有数の緑地空間をしっかりと守っていくために、いろいろな取組をこれからもやらなければならないと考えています。

>> 発言 8

飯能市の取組ということで、天ぷらの廃油の回収、リサイクルの御提案をいただきました。いろいろな地域で行われている先進的な取組も含めて検討しながら、費用対効果も考慮しながら進めていきたいと思っています。

またコンポスト、生ごみの回収について堆肥化を図っていくという御提案をいただきました。

生ごみの問題も結構大きくて、生ごみの場合は比較的濡れたままごみとして出されますと、焼却にすごいエネルギーが必要になります。そのため、私たちとしては少し乾燥させてから出してほしいと呼びかけたり、皆さん御存じかわかりませんが、S a i t a m a S u n d a y S o u p という運動をやっていたりします。これは、日曜日に冷蔵庫の中にある野菜を活用して、スープにして家族団らんでスープを楽しみながら冷蔵庫のあまっているものをなるべく廃棄しないように料理して使いましょうという運動で、動画もつくっています。また食品残渣を少なくする取組として、民間の食品系の事業者に参画していただいて、チームE a t A l l という取組もしています。

こういった取組とあわせて、コンポストや生ごみを削減するための取組についても非常に重要だと思います。検討していきたいと思っています。

>> 発言 9

廃油回収システムができないかというお話がありました。

さいたま市には今のところ、廃油回収システムはありませんので、考えていかなければならないと改めて感じたところです。

また、環境啓発施設というお話をいただきました。さいたま市では民間のいろいろな工場や環境などリサイクルの取組をしている事業者の方々と連携をしています。単独では先ほどお話があったテーマパークはありませんが、環境啓発施設がテーマパークのような存在になっていて、体験型で環境についていろいろな気づきを与えていただいたり、まさにリサイクルをやっているその場面を皆さんに見てもらったりというような形になっています。

夏休みに子どもたちに積極的に見ていただく取組なども行っていて、今後もこういった取組を更に進めていきたいと思っています。

>> 発言 10

学校の電気の使用方法や、小中高生の服装について、柔軟にしていくことで省エネ化につながるのではないかという御意見をいただきました。

私たちも今こうやって半袖のポロシャツを着ていますが、これもクールビズの一環。学生の皆さん、子どもたちにも呼びかけていくことは非常に重要だと思います。

また、学校での電気の使い方などについても、これから見える化を図っていく必要があると思います。あわせて学校の場合、比較的古い建物が多いものですから、高断熱にしてエネルギー効率を上げる取組があまりされていないので、そういったことも含めて取り組む必要があると考えています。

他の自治体との情報共有としては、さいたま市では、去年の11月に脱炭素に関する国際会議をやらせていただいて、海外も含めていろいろな自治体で行っている取組について情

報共有をし、協力し、共創する環境をつくっていきましょうということで開催しました。

さいたま市も今、いろいろな自治体と連携して、さいたま市も都市間連携事業として、マレーシアのクアラルンプール市のゼロカーボンシティへの取組のサポートをしています。

>> 発言11

地球温暖化対策につながる、具体的でわかりやすい事例をたくさん紹介することが必要ではないかと御提案いただきました。おっしゃるとおりだと思います。いろいろコンセプトや考え方といった抽象的なものも大事ですが、あわせて何をすれば地球温暖化対策につながるのかという事例をたくさん皆さんに提供し、その中で1つでも行動していただくことが、脱炭素化につながると思います。いろいろな取組をいろいろな市民の方がやっていますので、事例の紹介について、充実を図っていききたいと思います。

>> 発言12

自動車については、排出ガス規制がだんだん厳しくなっていますし、特にバスなどについては電気や燃料電池で動く車種も出てきています。段階的に私たちもそういったものに切り替えていきたいと思っていますが、まだ値段が少し高いこともあって、実現はできていません。特に公共交通や物流に使われる車が、できる限り空気を汚さない、二酸化炭素を排出しない車に変わることは非常に重要だと思っていますので、様々な補助制度なども検討しながら投資をしていききたいと思います。

>> 発言13

見沼たんぼについて御案内、御紹介がありました。私たちも、見沼たんぼについてはしっかり保全し、そして活用していきたいと思っています。

特に、斜面林が減っていることについては、私たちも憂慮しているところです。斜面林の減少をどうすれば防ぐことができるのか、私たちとしてももっと対策やサポートする制度について検討をしていきたいと思っています。

●参加者

< 発言14 >

地球温暖化という言葉は一見難しそうに思うのですが、SDGsのときと同じように案外聞いてみれば簡単、まさにこの資料の15ページにあるように、誰でもできることです。

何年か前までスーパーマーケットに行ったら必ずビニール袋をもらって帰って来ていました。今では自分でバック持っていくことが当たり前になっています。さいたま市には130万人いるから、皆でやれば130万人が行うこととなります。節電や、節水、外に出るときに車ではなくバスに乗るなど、できると思います。

私もマンションに住んでいるのですが、各部屋にクーラーをつけると、室外機から熱風がたくさん出ています。資料に書いてあるようにクーラーの設定温度を少し下げる、シャワーを浴びるときや風呂入るときにお湯を出す量を調整する、テレビをつけっぱなしにせずコードを抜くなど、少し考えれば地球温暖化対策に協力できます。今日聞いていたら、皆さん本当によく考えられてやられています。

あと、毎月、市報が配布されていて楽しみにしているのです。緑区の方と全市の方があります。市報に地球温暖化対策やSDGsについて書くとよいと思います。成功例や取組例について、市役所が先導して市民に教えてくれたらよいと思います。市民も、読む人は読みます。私は今日タウンミーティングに来るときに事前に資料を送ってもらいましたが、その前にインターネットで見っていました。

市役所がこんなことで成功しているよ、お風呂入るときはこれやってみよう、テレビ見るときはこうやってね、という簡単な内容にすれば小学生でも中学生もわかります。協力

求めて、130万人がやってくれたら130万回になるので、それで対策になると思います。

<発言15>

地球温暖化対策というと、地球温暖化にならないために何をするのかという話と、地球温暖化によって何か有事、災害になったときにどうするのかという2つの側面があると思います。地球温暖化を防ぐ、ならないようにする意味で、小さなことなのですが、食べること、飲むことが好きなので食品ロスを少し意識していきまして、基本的にワインは開けたら全部飲むにしています。

それと、冷蔵庫の中は、今までたくさんものがあると満足感があつたのですが、今はスカスカにしています。冷蔵庫は、エアコンと違って1年中つけっぱなしなので、小さなことでもかなり影響があるかなと思っています。たくさん食品を見て満足感よりも、何か地球のためになっているなど満足感を得ることなので、是非皆さんも協力していただければなと思っています。

温暖化で何か有事があつたときにどうするのかという視点で、少し来る前にインターネットで検索してデータを見ていたら面白いデータがありました。民間の大手不動産会社の調べで、埼玉県内の全自治体、市町村とさいたま市10区全部合わせたまちの住み心地ランキングがあつて、2019年から22年までの累積回答集計なので、相当数のサンプリングですが、1位から4位が市内4区なのです。5位に和光市、6位北区、7位が緑区なのです。だから、10区のうちの7位じゃなくて数百ある団体、自治体の中で緑区が7位というのは少しほっこりして、よい気持ちでここに来られたのですが、ただ防災という種別で見たときには上位には浦和区しか入っていないくて、緑区はずっと下なのです。

ということで、ハザードマップの展開はしていただいています。見沼田んぼという意味ではなくて、この辺でいうと芝川や見沼代用水の有事の際の治水の取組の見える化をしていただければありがたいと思いました。

<発言16>

環境基本計画の重点施策の一つとして、スマートシティの実現が挙げられています。その中で是非スマートライティング、すなわち屋外照明である街灯や防犯灯のスマート化を導入し、省エネルギー及び光害削減による環境改善に全国の政令指定都市に先駆けて取り組んでいただきたいというのが私の意見です。

現状の環境基本計画の中では、LEDに関して単に長寿命で省エネのLEDに交換するといった記述しかありませんが、LEDの長所はそれだけではありません。IoT化により時間帯や人や車の通行量に応じて点灯制御、機動制御を行うことができます。例えば深夜には明るさを50%削減し、人の動きを検知すると一定時間元の明るさに戻るといったスマートライティングの技術が既に可能となっていて、海外の先進的な都市や国内でも一部の自治体で試験的に導入されています。近い将来、世界中で急速に普及すると考えられています。

照明は、世界の電力消費の約2割を占めていると言われていています。安全なまちづくりに不可欠ではありますが、現状のような一晩中同じ明るさで点灯しっぱなしである屋外照明は、周辺環境によってはエネルギーの浪費となり、生態系や星空にも悪影響を及ぼす光害の原因となっています。

以上、是非屋外照明のスマート化による省エネルギー、環境改善に、他の自治体に先駆けて先進的に取り組んでいただきたくお願いを申し上げます。

◆市長

>> 発言14

とにかく行動に移すことだということで、市報も含めて具体的な行動について、何をす

れば省エネになり、脱炭素化につながるかということ、わかりやすくお知らせしながら呼びかけをしていきたいと思っています。また見える化をしていくことでその効果がどう上がっているのかもお知らせすることが重要だと思っておりますので、あわせてやっていければと思います。

>> 発言15

ワインについてはいろいろな考え方があるかもしれませんが、冷蔵庫に食品を入れる割合を減らすことで節電につなげるという取組のお話をいただきました。市民の皆さん一人ひとりが行っていることは、多種多様にあるのだらうと思います。各取組を市民の皆さんに御紹介し、その中でそれぞれがやれることをやっていただいて、どういう成果が上がったのかを共有できればよいなと思います。

>> 発言16

スマートライティングというお話をいただきました。これは本当に重要な視点だと思っています。省エネにもつながり、生態系や、人々の生活にもよい効果にもつながる重要な取組だと御紹介をいただきました。本当にそのとおりだと思います。私たちも、スマートライティングについて、研究、検討していきたいと思っています。

今日はたくさんの皆さんから非常に積極的に手を挙げて御提案をいただきまして、本当にありがとうございました。

また、中にはパワーポイントをつくっていただいたり、いろいろ工夫したり、御意見をまとめてきていただいたり、事前にいろいろな御努力をしてこのタウンミーティングに御参加をいただいたことを改めて痛感しました。本当にありがとうございました。

また一人ひとりの意見に対して皆さんが拍手を毎回丁寧に送っていることも、本当に素晴らしいなと思いました。

私たちも、これから一人ひとりの御意見や思いを大切にしながら、どうやったら具体的な行動をし、脱炭素への少しでもよい成果につなげられるのかをこれからも更に検討していきたいと思っています。

今日は、皆さんから大変貴重なお話をたくさん聞かせていただきましてありがとうございました。また、若い世代の皆さんから人生の大先輩まで、大変幅広い世代の皆さんに御参加をいただいて、本当に素晴らしい意見がたくさん出ましたので、私たちもしっかりそれに学ばせていただきながら、少しでもよい方向に持っていけるように、また計画の改定に取り組んでいきたいと思っています。今日はありがとうございました。

■ 補足説明

「紫外線UVケア、あとはたれ付き帽子をかぶり、涼しい風がくる扇風機をつけてシャワーなどで身を清潔にして、ヘルシーランドなどでリフレッシュ」について

夏の暑さを乗り切るために非常に良いことだと思います。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「天然資源を有効活用したらよい」について

限りある資源を有効活用し、循環型社会を構築するため、3Rの推進を引き続き行ってまいります。

(環境局 資源循環推進部 資源循環政策課)

意見を参考に致します。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「アイドリング禁止罰則化」について

さいたま市生活環境の保全に関する条例に規定するアイドリングストップの実施について、アイドリング状態については刑罰を設定する上での明確な基準設定を行うことが困難であり、義務違反者に対して罰金を科することは難しい状況です。

そのため、当該条例では刑罰によらず、義務違反者に対して市長による是正勧告及び是正に応じなかったときの公表制度を規定し、実効性を担保しています。

(環境局 環境共生部 環境対策課)

「ポータブル電源とソーラーパネル」について

本市では、家庭部門からの二酸化炭素排出量が多くを占めており、住宅の屋根等に設置する太陽光発電設備に対して補助金を交付し、再生可能エネルギーの普及拡大に取り組んでおります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「温暖化対策に係る設備機器の耐用年数、廃棄処分費用、税金などの費用負担」について

埼玉県がホームページで適正な処理方法について紹介しております。本市でも大きな課題として捉えておりますので、全庁的に市民の方々の税負担がなるべく増えないよう取り組んでいきたいと考えております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「一人ひとりがもっと危機感を持てるように」について

本市では、市民の皆さんが主催する集会や会合、学校の授業などに、市の職員が出向いて市の施策や制度、事業等について分かりやすく説明する「出前講座」を実施しています。この出前講座の中には、地球温暖化対策に関するものも含まれており、1人1人にもっと危機意識を持っていただけるよう、周知等を図ってまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「小中高生の服装」について

熱中症予防の観点から、気温や湿度が高い時期は帽子や日傘を始め、軽装での登下校を認めるなど、柔軟な対応をするよう、学校に通知しています。

(教育委員会 学校教育部 健康教育課)

「他の自治体と情報共有をして」について

国内の自治体とも連携し、再エネ電力の市外からの調達等、さいたま市だけでなく、他都市を巻き込みながら、ゼロカーボンを達成したいと考えております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「空気の汚染度の発表」について

本市では、市内14地点に大気常時監視測定局を設置し、大気状況を常時測定しています。大気状況は埼玉県ホームページにてリアルタイムに確認することができ、経年変化や環境基準達成状況については本市ホームページにて公表しています。経年変化より、30年ほど前と比較して大気環境は大幅に改善していますが、ご意見いただきましたとおり、これらを皆様にご理解いただくための周知も重要な取組と考えています。今後も、イベント等を通じて、大気環境に関する周知を実施してまいります。

(環境局 環境共生部 環境対策課)

「芝川や見沼代用水の有事の際の治水の取組」について

一級河川芝川は埼玉県が所管しており、「埼玉県川の防災情報」において、河川水位や雨量などの県内河川情報をWEBで提供しています。

見沼代用水については、見沼代用水土地改良区が管理しております。

本市では、市内の河川、道路、下水道の水位情報、カメラ画像をまとめた「さいたま市水位情報システム」を運用しております。パソコン版のほか、スマートフォン版もありますので、大雨時の情報収集にご活用ください。

(建設局 土木部 河川課)

「市内のデジタル化促進」について

引き続き、民間事業者や地域ICTリーダ等と連携し、デジタルデバイド解消に向けた取組を推進してまいります。

(都市戦略本部 デジタル改革推進部)

「とにかく行動に移すこと」について

今年の9月6日に本市は、環境省が新たな国民運動として提唱する、脱炭素を意味する「デ・カーボナイズーション」と、環境に良い「エコ」、活動・生活を意味する「活」を合わせた、いわゆる「デコ活」に賛同する「デコ活」宣言を行いました。

デコ活とは、脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの全体像・絵姿を紹介するとともに、国・自治体・企業・団体等で共に、国民・消費者の新しい暮らしを後押しすることとしており、環境行政と消費者行政が相互に協力しながら進めていくべきものと考えております。11月23日に開催された消費者生活展では、脱炭素社会推進課も参加し、デコ活の周知等を実施いたしました。今後も、消費者行政とも連携しながら、脱炭素に関する周知・啓発等を進めていきます。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)